

好評連載

マキシ工作室

MAXI D.I.Y School Part 30

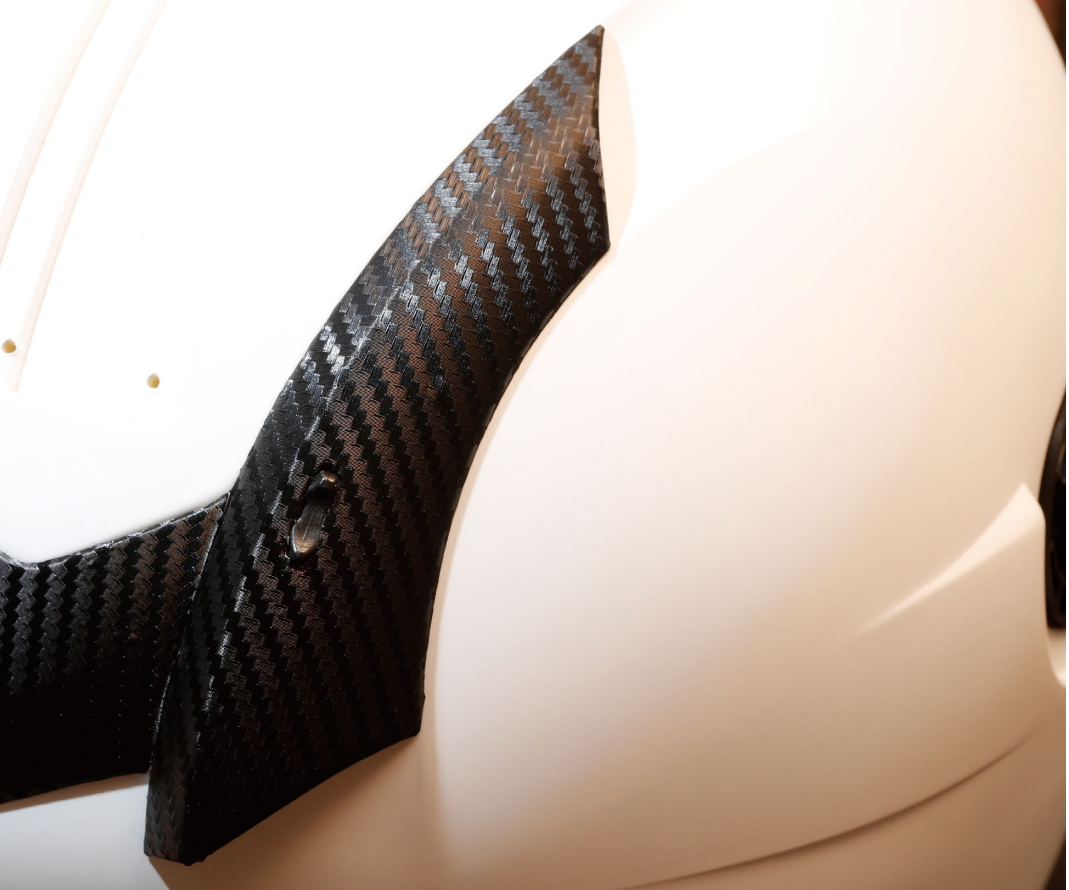
高性能カッティングシートを格安購入でできる時代!! カーボン調デザインで視覚的チューニングを楽しむ

テーマ◎カッティングシートの張り込み

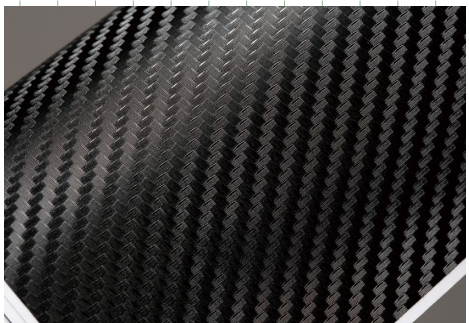
本誌テクニカルアドバイザーであるモデルクリエイトマキシ主宰、板橋儀典さんのご協力を得て展開する「マキシ工作室」。
このコーナーでは、プラスチック部品製作のプロによる、サンデーメカニクスにはほとんど知られていない「様々なテクニクス」を通じて、
バイクライフ、サンメカライフがより充実することを目的としている。

今号では、カッティングシートの上質な張り込み実践に注目してみよう。やり方をマスターすれば、クルマ一台、まるまる張り込みも夢ではない!

Text / K.YAGUCHI 田口謙己 Photo / A.KURITA 黒田 晃 取材協力 / モデルクリエイトマキシ Phone 027-730-5660 〒160-0047 東京都板橋区 (カーボン調のカッティングシート) <http://www.astiro-pool.jp/>



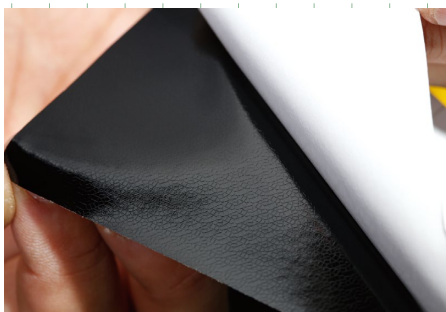
今回はフルフェイスヘルメットの視覚的チューニングを実践してみた。シェルに取り付けられたエアークラウドをカーボン調にすることで、クラウドの存在感を圧倒的に高められる。



商品名◎APカーボンフィルム

1520mm幅×1m◎税込価格1450円 1520mm×30m◎税込価格3万9800円

高性能かつ貼り込みやすいことで知られる大手メーカー製商品と似た貼り込み追従性が魅力のカーボン調カッティングシート。何より嬉しいのがその価格。試してみよう!!



カッティングシートの粘着面を凝視すると、一般のカッティングシートとは異なり、規則正しく幾何学模様のような溝が彫られていることに気がつく。粘着力は低く再貼り直しが容易だ。

今回は、別件取材中に同商品を見つけて即購入。ここはアストロプロダクツさいたま店。他店スタッフの中にはスズキのカブチーンを丸まる一台、このカーボン調カッティングシートで貼り込んだ実例もあり、成功したそうだ。



自分でデザインしたグラフィックや文字をカッティングシートに転写し、カッターで美しく切ることでワンオフのデカールやエンブレムを作ることができる。バイクいじり好きなら、誰もが一度はオリジナルデカールを作ってみたく考えたことがあるはずだ。一般のツヤ黒、半艶黒、赤、青、その他にもメタリックゴールドやシルバーなど、現在では、様々な色のカッティングシートが発売され、貼り込みに対して追従性が良く、しかもUVに対しても高い耐候性を持つ商品が登場している。

はるか以前のお話になるが、そのような商品を一般的に入手することは困難で、特定の業者でなくては購入できない時代があった。しかし現在では、一般市民でも高性能なカッティングシートを購入できる時代となっている。

しかしながら、それは着色カッティングシートのお話であって、90年代のバイクシーンから様々な場面で多用されるようになった「カーボン織り」を模したカッティングシートは、相変わらず入手困難だった。購入できたとしても高値で



モデルクリエイトマキシ主宰
板橋儀典◎Yoshinori ITABASHI

自動車用樹脂部品の試作メーカーに勤めていた当時から数多くの試作部品開発に携わってきた経験を持つ。プラスチック部品を自作する時には、第一に素材の物性を理解し、熱加工に対する変化をあらかじめ想定した上で作業に取り掛かると良いそうだ。



今回、カーボン調カッティングシートを貼り込むフルフェイスヘルメットはマットホワイト色。ツヤが無いので貼り込みにくいと思ったが、決してそんなことはなかった。ツヤ有りペイントなら粘着力がより高まるはずだ。



粘着テープを剥がして見るなり「これは高級カッティングシートと同じ雰囲気ですね。試しにドアミラーにでも貼り込んでみますか?」と、寸法をザックリ測って切り出し、作業開始。手で持って引っ張る部分を少なくし過ぎたため、貼り込みに苦労していたが、数分後にはご覧の通り!! 驚き!!



貼り込み作業開始前にヘルメットに組み込まれる内装パーツや各種部品をできるだけ取り外してみることにした。さすがにインナーの緩衝体は外せないのが諦めた。ダクト部分はビス留めではなく着着固定式だった。



ここでは前側左右2箇所と後方左右一体の合計3箇所に取り付けられているエアードクトにカーボン調カッティングシートを貼り込む作業をしよう。まずは寸法確認から開始。



手が届かないケースが多かったのである。単にカーボン織りの「印刷仕上げ」ではなく、微妙な凸凹まで摸したカーボン織り調のカッティングシートは、ひとたび貼り込むと、その質感&仕上がりはまさにカーボン織りそのもの。数メートル離れて見れば、まったく見分けがつかないほど完成度が高い。

ダクト(さいたま店)で見つけたカーボン調カッティングシートは、三次元曲面に対しても追従性が良いそう。同社スタッフは自身の愛車、スズキのオープンポニーに変身させたそう。また、さいたま店には同社製ツールボックスにこのカッティングシートを貼り込み、カーボン調ツールチェストを見本展示している。

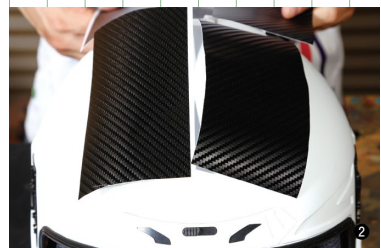
た。特にカッティングシートの貼り込みやラッピング経験が無いスタッフでも、ハードルが低く楽しめるのも、このカーボン調カッティングシートのような。ここでは、APが扱うカーボンフィルムとフルフェイスヘルメットをマキシ工房へ持ち込み、エアードクトを「カーボン織り仕様」にモディファイした様子を取りポートしよう。



エッジサイドの巻き込み(押し込み)を終えたら、鋭い先端を持つデザインカッターでサイドの巻き込み部分のスレスレでカットする。慎重に作業を進めていこう。



ダクトの形状に合わせて貼り込みを終えたら、エッジから5mm程度の場所でエアードクトの外周形状に習ってカッティングシートをハサミで切り落とす。粘着面に溝があるので切りやすい。



測定したおおよその大きさより全周10mmほど大きくカッティングした。カーボンの織り目が左右対称になるような切り合せにしてみた。果たしてどのような仕上がりになるのか?



エアードクトの開閉ノブ部分は、ヒーターで少しだけ温めながらスパチュラで押し込み接着していく。温め過ぎは厳禁なので、ヘアードライヤーほどの強さで十分である。



エアードクトの空気海入部分には当然ながら空間があるが、その内側に貼り込むようにカッティングシートエッジをスパチュラで巻き込む。スパチュラの平面部分でRに合わせて押し込む。



ポリカーボネート素材の帽体にマットホワイトペイントが施されている。まずは汚れ落としと脱脂から始めた。溶剤を使うと塗料や素材が変質する可能性があるため家庭用洗剤マイベツトを利用。



ノブ部分にカッターで切り込みを入れ、余った部分を隙間に巻き込むとこのような仕上がりになる。ヒーターで熱すると伸びるが、冷えるとやや縮む性質のようなので引っ張り過ぎに注意。



サイド部分の貼り込みは少々難しい。この程度のRならまったく問題無いが、ダクトを外せないため隙間が少ないのだ。僅かな隙間にスパチュラのエッジを差し込み接着する。



粘着保護シートを剥がしたら、ダクト内にある開閉ノブを気にせずに一気に貼り込む。どうやら粘着面にある溝がエアークラスミに似ている秘密のようだ。スパチュラでエッジを優しく押し込む。

【質問eメールアドレス】 mm@bikebros.co.jp



実はこのマットホワイト(オフホワイト)は市販化に向けてサンプル製作したプロトタイプ。ホワイト系ペイントの市販品はパールホワイトになる。白ベースならオリジナルグラフィックを施すことで、雰囲気が変わる様子をご理解頂きたいのではと考え、この企画を思いつきました。

2013年の大阪・東京モーターサイクルショーでデビューした Bike Bros.OriginalのBH-0001。ジェットタイプのかぶりやすさと、フルフェイスの安心感を併せ持つフリップアップヘルメットながら「買いやすさ」を徹底追及し、ヘルメット単独商品としてはバイククロス通販において発売以来 月間販売個数ナンバーワンを記録。ビギナーからベテランまで、多くのライダーにご愛顧いただいている。その第2弾として登場したのが、ここに紹介するフルフェイスのBH-1001だ。シンプル装備によるロープライス化(「買いやすさ」)を継承しながら、軽量化やデザイン性を高めることで「使いやすさ」を追求しています。バイザーの可動機構もスライドタイプとなり、グローブのままでも操作は簡単。昼夜を問わず、視界の確保をサポートしている。

BikeBros.

紙のマスキングテープを貼った上にマーカーで線を入れてグラフィックを決定。デザインが決まるまでに要した時間は数分。考え過ぎるとごちゃごちゃになってダメなんです。



別室 マキシ工作室

MAXI D.I.Y School Besshitsu

マイヘルメットを高性能なカッティングシートでアップデート!!

Bike Brosオリジナル◎インナーバイザーフルフェイス BH-1001のカスタマイズ

弊社バイクブロスでは今春よりオリジナルヘルメットの販売を手掛け、この秋、2タイプのニューモデルを追加発売することになった。すでにご好評を頂いている「買いやすさを極めた多機能システムヘルメット」と併せて、全3タイプがラインナップ。ここでは、新製品BH-1001フルフェイス仕様をベースに、カッティングシートを使ってオリジナル度を追求する、カスタマイズを提案しましょう。

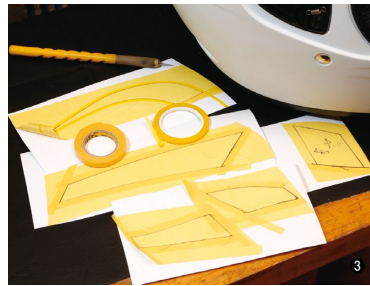
Text / K.TAGUCHI 田口勝己 Photo / A.KURITA 栗田 晃
取材協力 / モデルクリエイトマキシン Phone 027-730-5660
アストロプロダクツ (カーボン調カッティングシート) <http://www.astro-p.co.jp/>



グラフィックばかりではなくロゴやエンブレムを貼り込むことで、オリジナリティがさらに高くなる。いかがですか？



あーじゃない、こーじゃないと言いつつも、極めて簡単に切り出されたグラフィックデザイン。アクセント用に黒も切ったが使わなかった。



マスキングテープにイメージしたデザインを剥がして厚紙に貼り付け、この状態でハサミで切ればカッティング用の台紙になる。



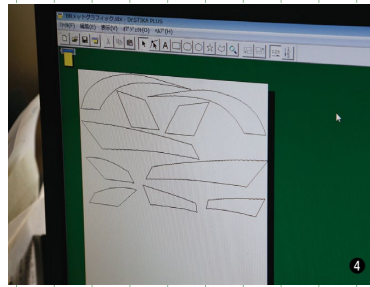
発売中のヘルメットはマットブラック、ガンメタリック、パールホワイトの3色。今回のグラフィックは、全色共通で楽しめるはずだ。



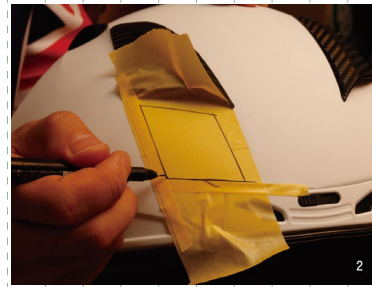
メーカーロゴではないが、こんな感じに貼ると落ち着きが良くなる。文字カッティングはカーボン調シートから切り出した。



高性能カッティングシートは薄くても腰があって貼りやすいようだ。こうして貼り込んでいくとイメージが見えてくる。



ここはプロの作業場なので、手切りではなくカッティングマシン用データに置き換え、プロッターでマスキングシートから切り出す。



マスキングテープを貼ってからマーカーでイメージラインを入れる。3次元曲面に合わせてマークすればカッティングを緻密にできる。



いかがですか？ この感じ。個人的には大変気に入っておりますが、あくまで自己満足の世界です。全体をクリアで押さえて完璧に!?

人気第1位「マットブラック」

Model: Bike Bros BH-1001

税込価格◎1万4900円



逆光が眩しいときにはスモークインナーシールドを使える。頭頂部のスライドレバー操作で簡単に開閉する。



「楽しさ」を彩った シールド付き スモールジェット

Model: BH-2001

税込価格◎5900円

シティユースからプチツーリングまで、軽快かつファッションブルにバイクを楽しむライダーに人気のスタイルヘルメットに、落ち着いたマットカラーを組み合わせたことで、幅広いシーンで活躍できるヘルメットに仕上がりました。マットレッド、マットブラック、マットグリーンの3色。M/Lの2サイズ

